

景況動向指数(Diffusion Index)

(2022年4月～6月)



経営発達支援事業資料

長浜市商工会

調 査 対 象 事 業 所

長浜市商工会 管内100事業所

製 造 業 (2 0 事 業 所)

建 設 業 (2 0 事 業 所)

卸 小 売 業 (2 0 事 業 所)

飲 食 宿 泊 業 (2 0 事 業 所)

サ ー ビ ス 業 (2 0 事 業 所)

*調査期間 2022年4月～6月

この資料は、経営発達支援事業の地域の動向調査に関することの目的で実施した資料です。

* D I とは？

本報告書の中で%以外に用いているD I 指数とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略です。

各調査項目について増加（上昇、好転、長期化）企業割合から減少（低下、悪化、短期化）企業割合を差し引いた値を示します。

D I が+（プラス）なら強気（楽観）、-（マイナス）なら弱気（悲観）を表します。

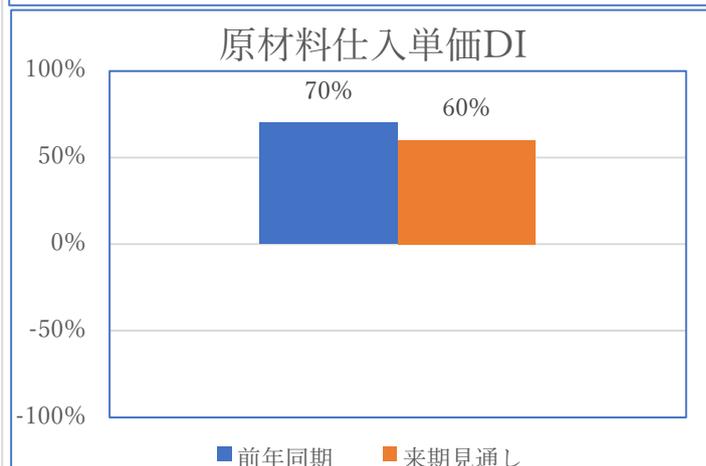
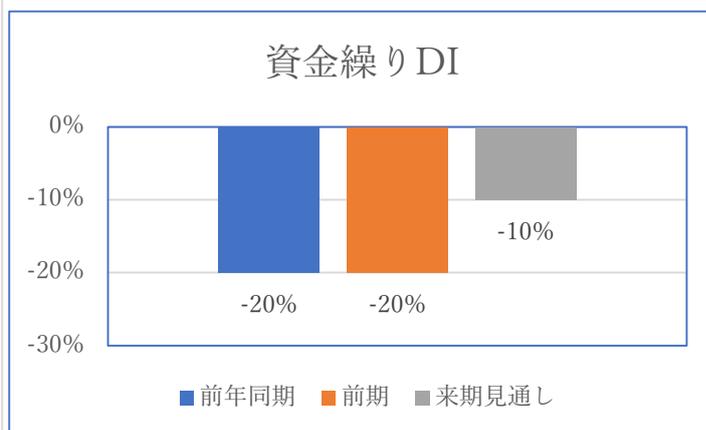
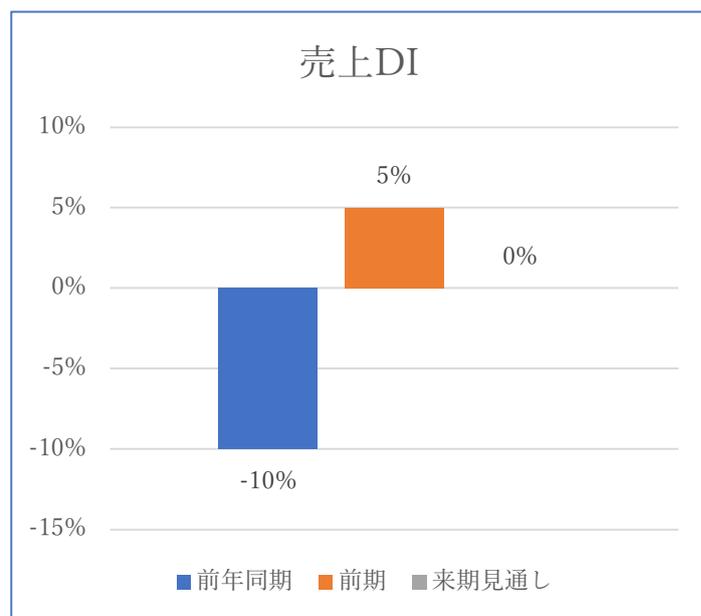
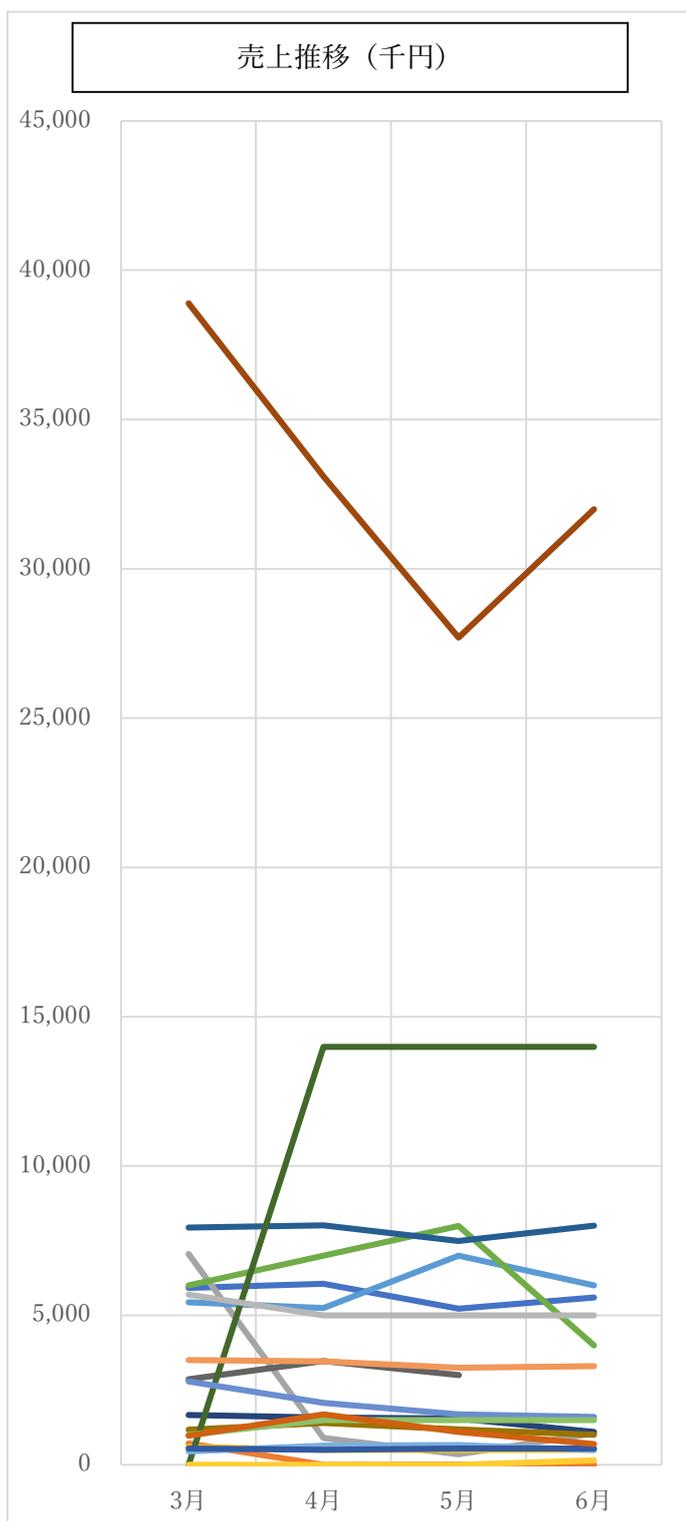
例えば売上高で増加企業 50%、不変企業 30%、減少企業 20%の場合、

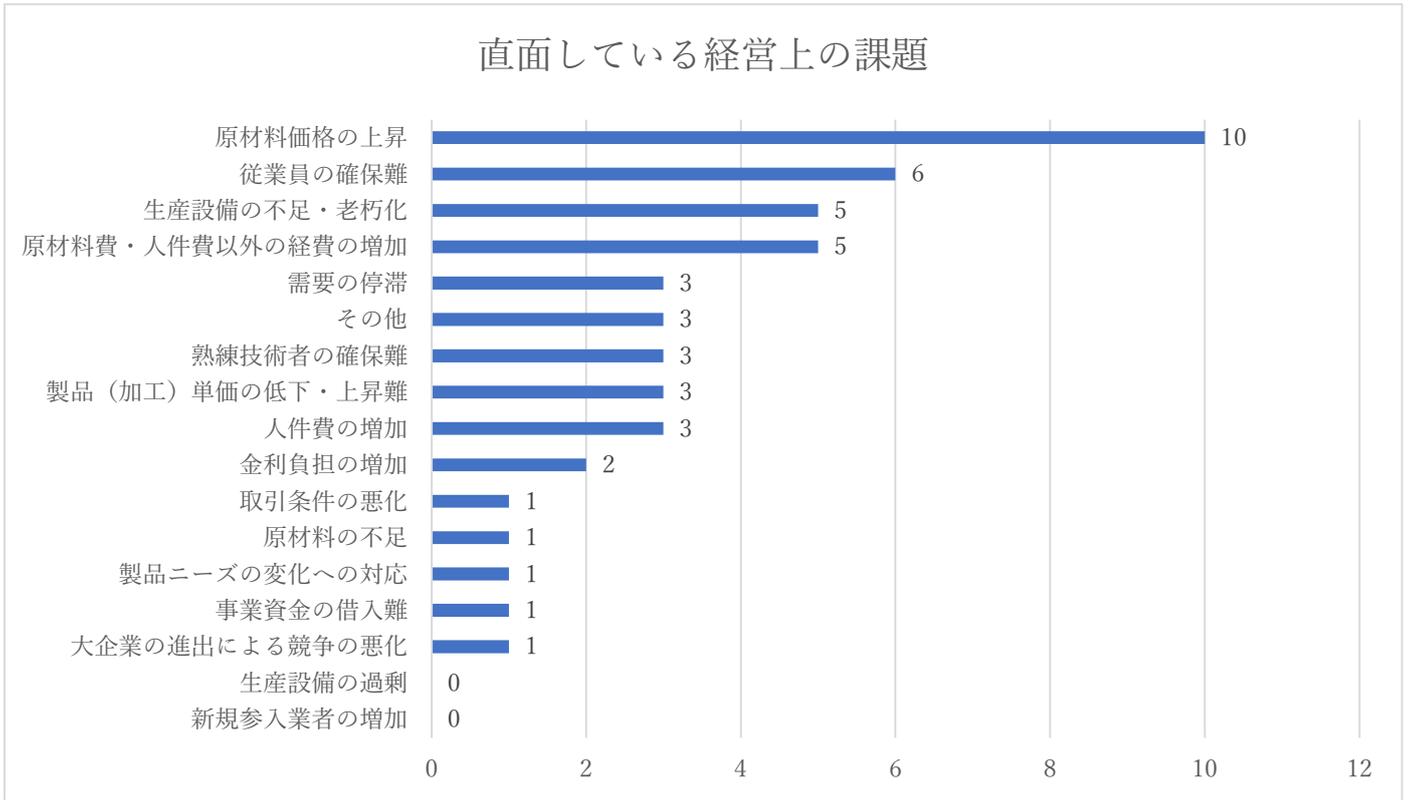
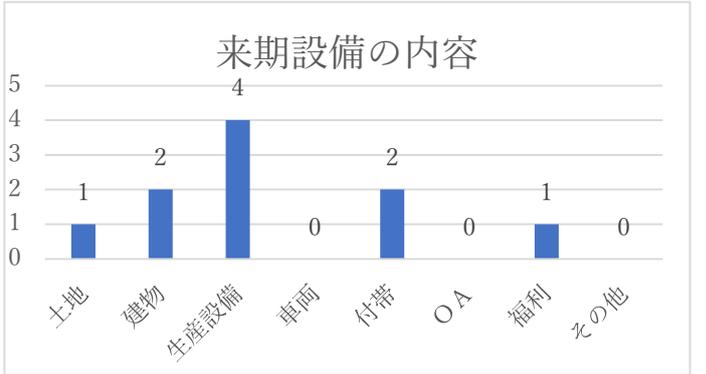
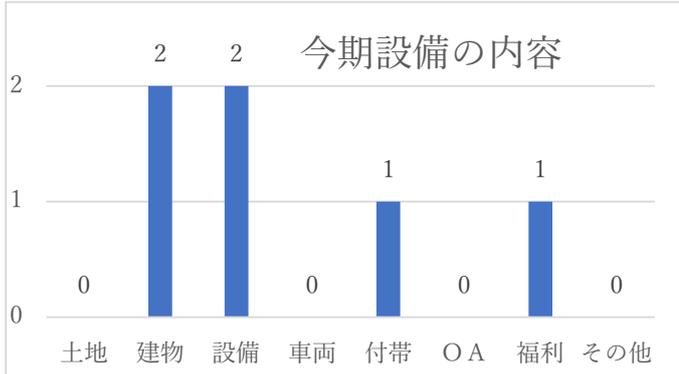
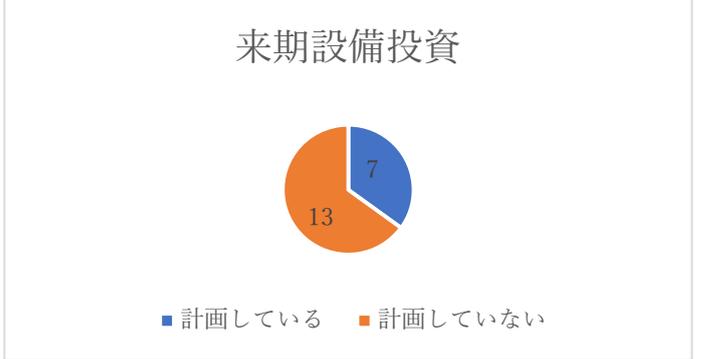
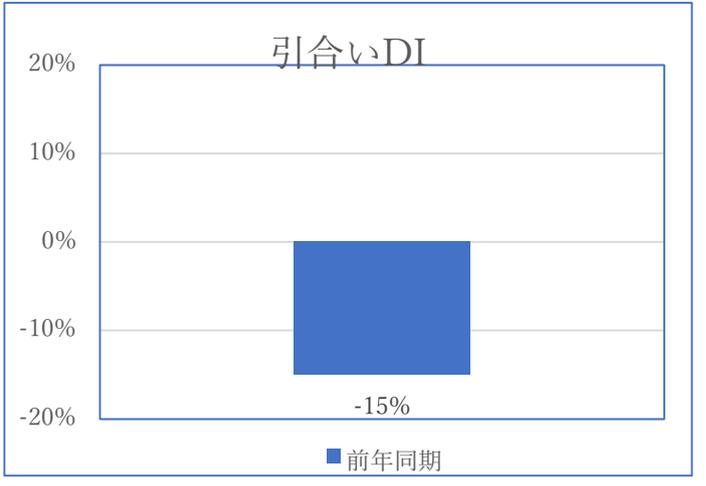
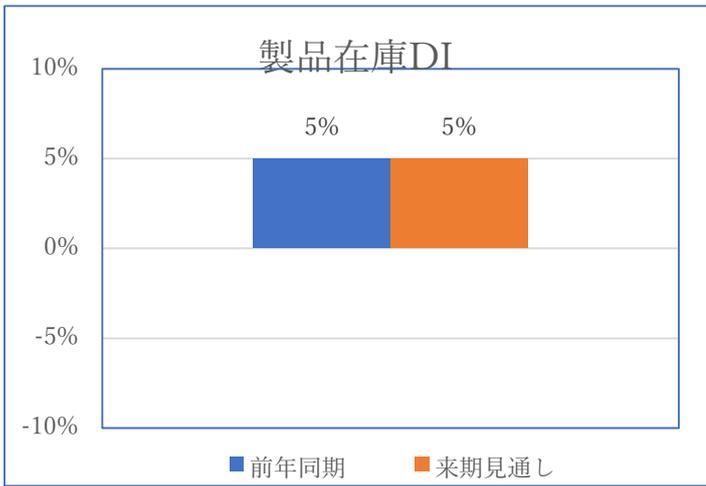
D I 指数・・・ $50\% - 20\% = 30$ となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表しています。

コメント

製造業の業績判断にかかるDIは、コロナの感染収束傾向を反映して売上の下げ止まりの様子が見受けられる一方、材料価格上昇の影響を受けて資金繰り悪化が見受けられる状況である。売上DIは前年同期▲10、前期+5と下げ止まりから微増に転じ来期見通は拮抗する見通しである。資金繰りDIについては前年同期▲20、前期も▲20と悪化傾向である。来期の見通しも▲10と厳しい。原材料仕入単価DIの上昇が顕著で、前年同期+70、来期見通し+60と原価上昇の影響を上げる企業が過半である。引合いDIについても、今期水準▲15と低調である。設備投資について、コロナ禍では途絶えていたが生産設備への投資を予定している企業がある。

個別の声としては昨年よりは少し数量も受注が増えてきているがロシア問題が終わらないかぎりまだまだ不安が拭えないエネルギーの上昇もありこの先も不安。巣ごもり消費により売上増加するもロシア問題により原材料や副原材料、包装材・運賃等が高騰しており不安、増産により人員不足も深刻化。原材料や光熱費等の値上げを売上単価に反映させることが難しく、資金の圧迫になってしまう。賃金を上げて人材を確保したいが、資金的な問題で難しい。など売上の回復に水を差す懸念要素の指摘がある。





建設業（2022年4月～6月）DI 値抜粋

コメント

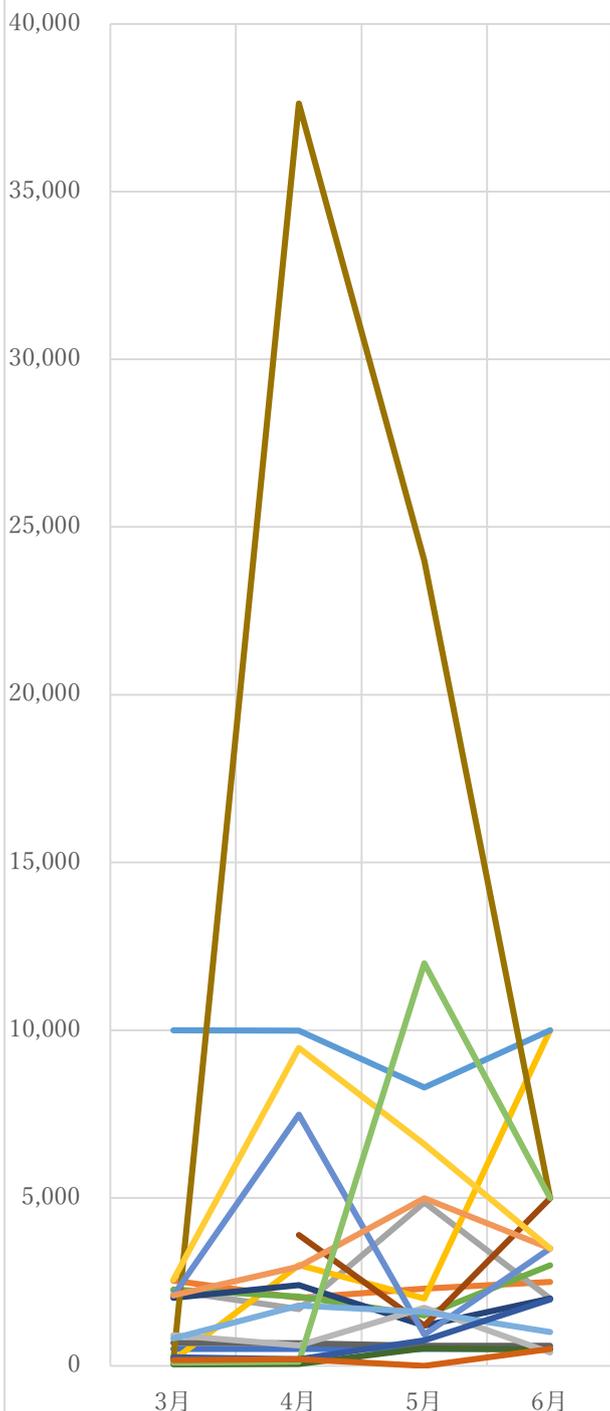
建設業の業況は、他業種より原材料価格の上昇の影響を受けており、採算や資金繰りの見通しに不安が高まっている。

完成工事高DIは前年同期+15、前期+30と足元では回復の状況が伺えるが、今後の見通しは▲20と先行きが低調となる懸念が見受けられる。

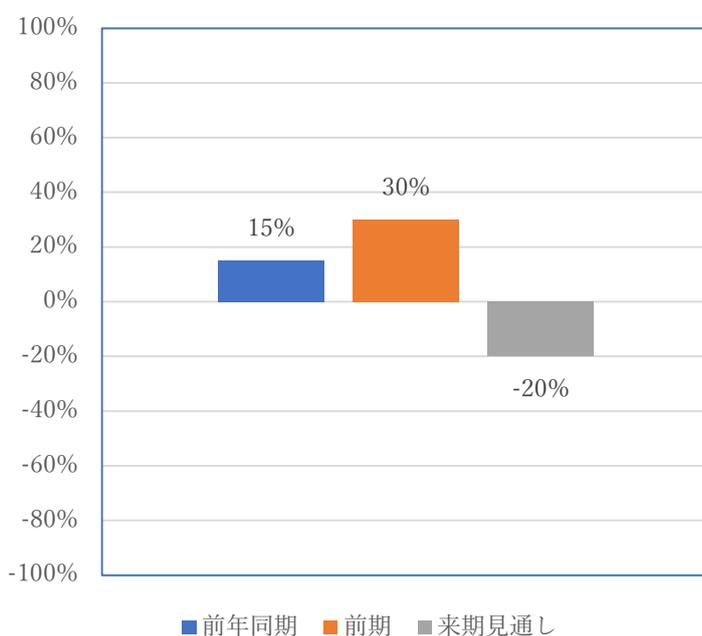
材料仕入れ単価DIが極めて厳しく、値上がり+85前年同期でほとんどの企業において材料の値上がりの影響があると回答している、来期見通しも+70と木材や鉄材の仕入価格の上昇の声がある。採算DIも前年同期▲20来期も▲30と低調である。設備投資も足元、先行きとも低調である。

個別企業の声として、大雪の補修工事による特需、引合い物件は増えている、コロナ禍は出しつつあるという若干の明るい声がある一方、設備の納期遅れ、作業員確保難による施工の停滞、ウクライナ問題による木材合板等の価格上昇、上海市のロックダウンで設備機器の入手が困難、材料価格の上昇の一方顧客からの価格は数年前から変わらない、材料価格の上昇により、2～3か月先の仕事の準備が出来ないといった、先行き懸念を上げる声が多く聞かれ、小規模建設業事業者の不安が浮き彫りとなった。

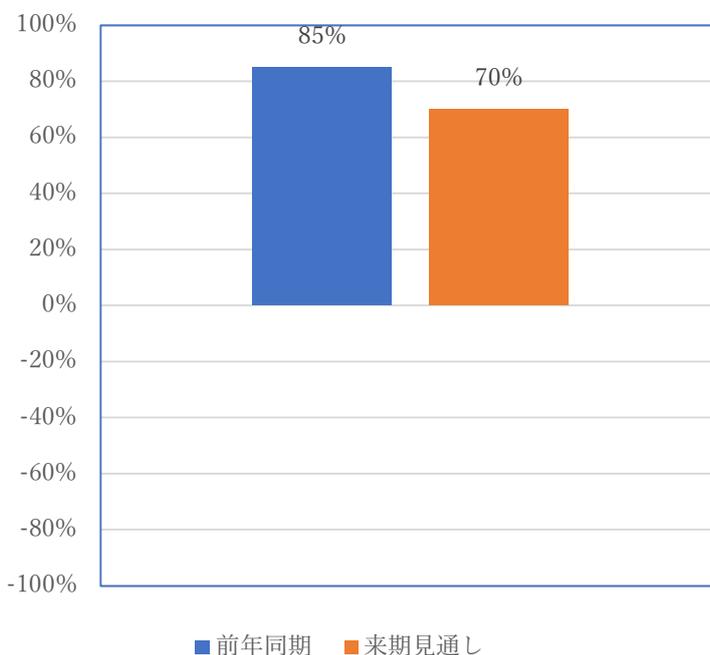
売上推移（千円）

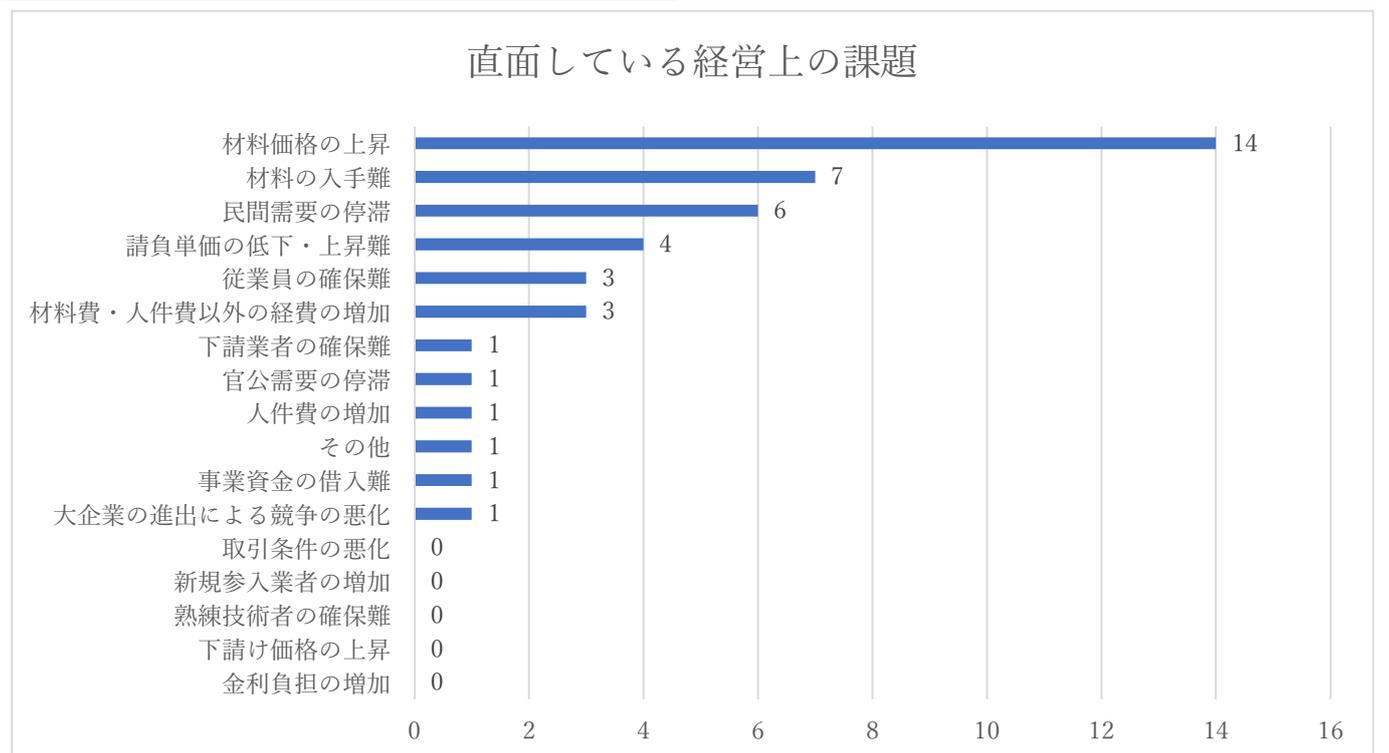
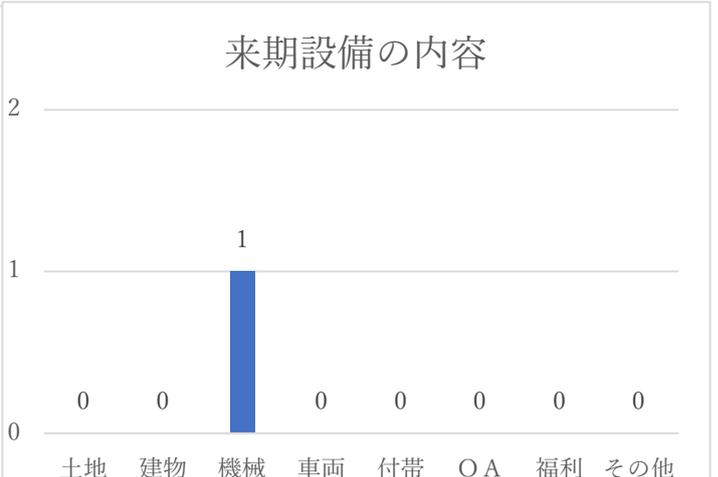
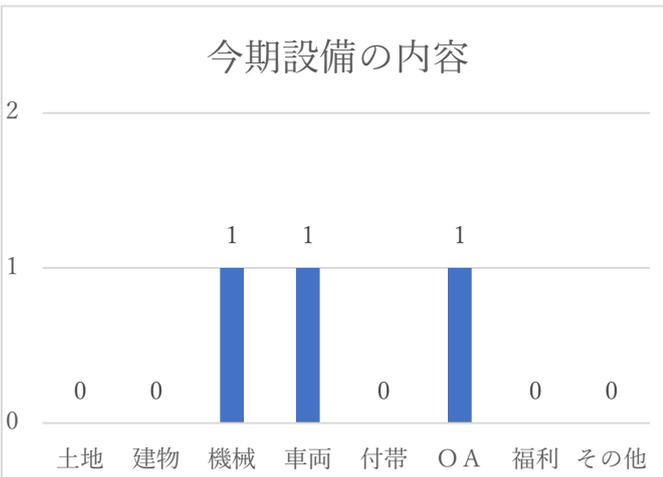
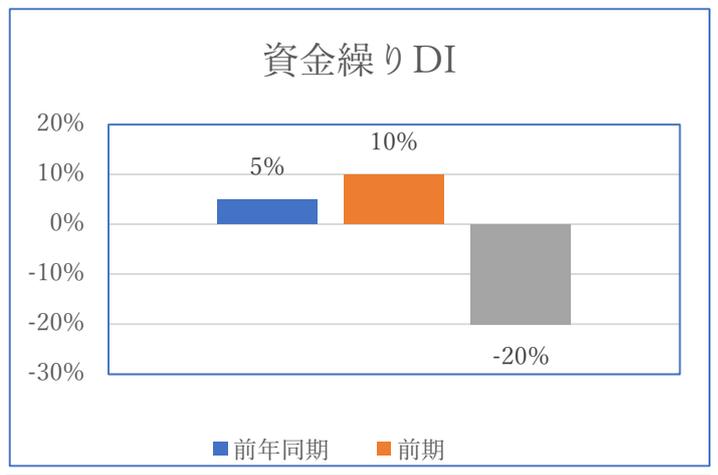
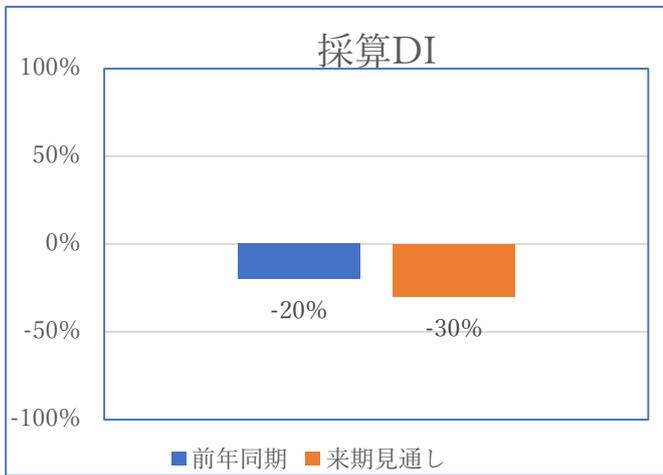


完成工事DI



材料仕入れ単価DI





卸小売業（2022年4月～6月）DI 値抜粋

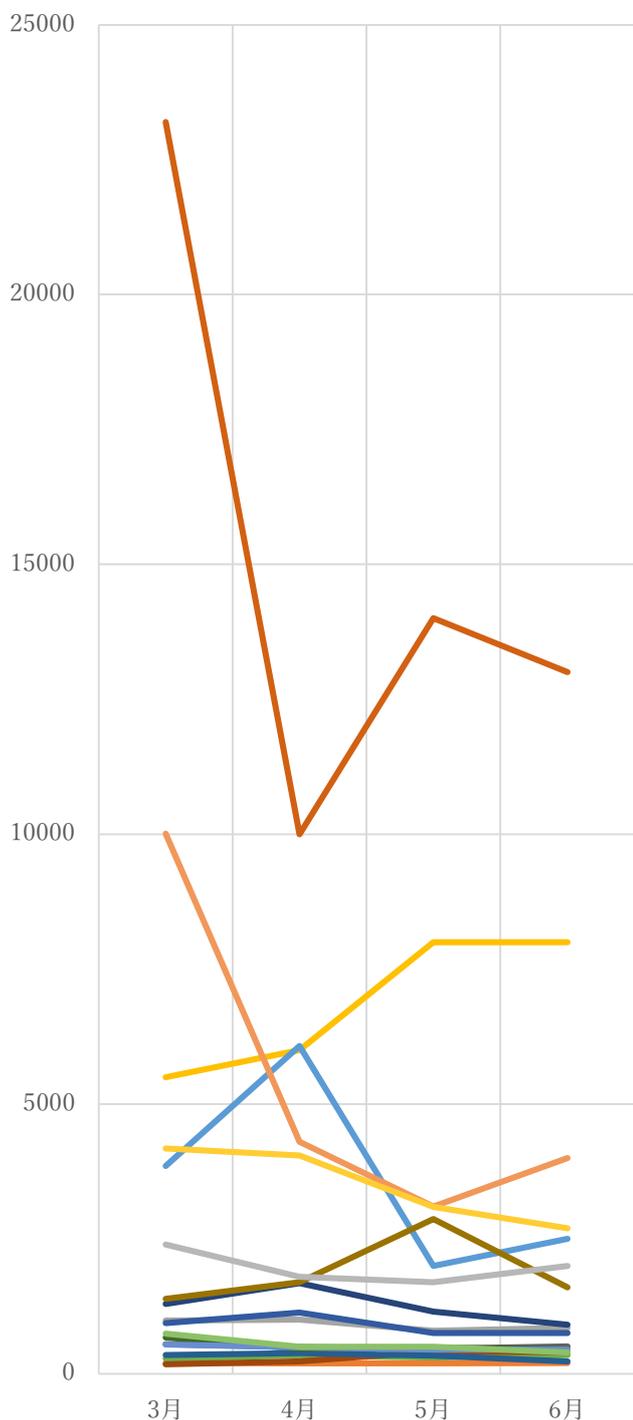
コメント

卸小売業の業況に関するDIは、低調な状況が続いており、仕入価格の値上がりもあり採算・収益の悪化が続く状況である。

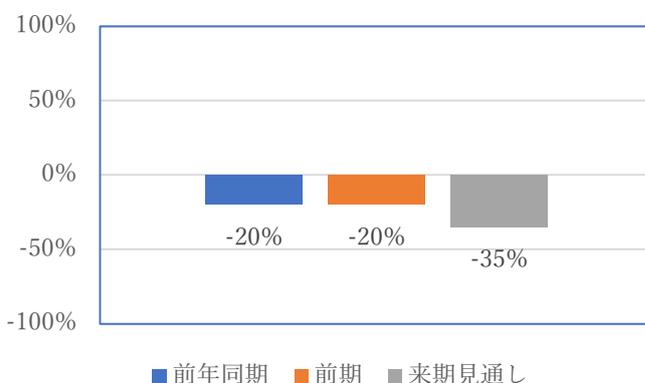
売上DIは前年同期▲20と感染の収束はあるものの回復は鈍く、前期からも▲20と低調な推移が続いている。今後の見通しも▲35と前期に増して低調な見通しとなっている。

資金繰りDIについても前期同期▲25、前期▲35と厳しい状況が続き、来期も▲35と資金繰り面に不安を抱える声大きい。生活様式の変化もあり店頭客の回復は鈍く客数DIは前年同期▲15、前期▲20来期見通しも▲25と来客の減少が見受けられる。採算面では仕入価格の上昇を上げる企業が多く、商品仕入単価DIは前年同期+65、来期+70とコストの上昇が顕著であり、業況や採算で前年同期の大幅マイナスとなっている。個別の声として、コロナが少し収まりゴールデンウィークは多くの人出と好天に恵まれコロナ禍前に近い売上がありましたが、必ずしも手放しで喜べず予断を許さない状況が続く、という若干明るい声の一方、原材料価格上昇分を十分に価格転嫁できていない、商品を発注しても、在庫切れ・メーカー欠品で入荷の見込みがない。値上げが多いというコストアップに関する厳しい声が聴かれる。法事や会食の機会が元に戻らないという生活様式変化が経営に与える影響も聞かれる。

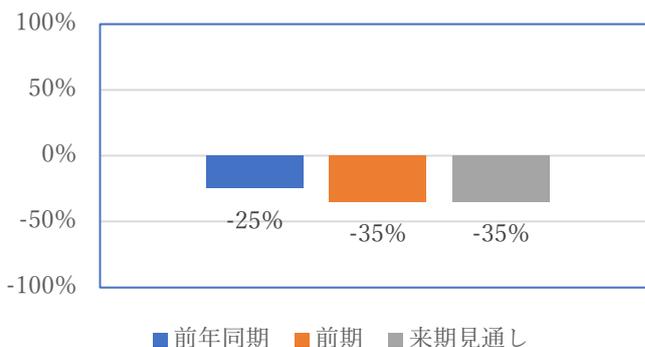
売上推移（千円）



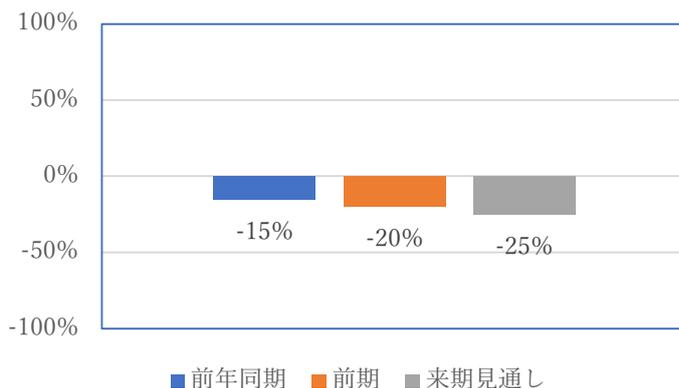
売上DI



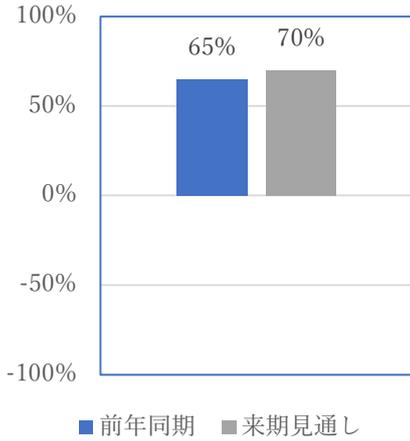
資金繰りDI



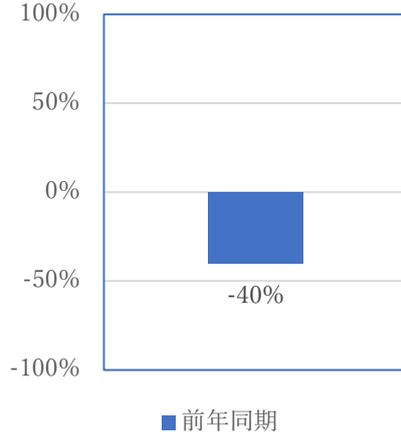
客数DI



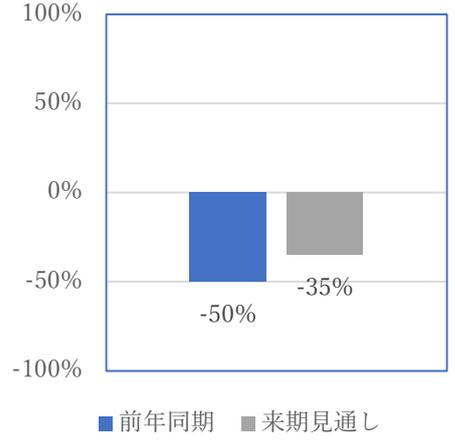
商品仕入単価DI



業況DI



採算（経常利益）DI



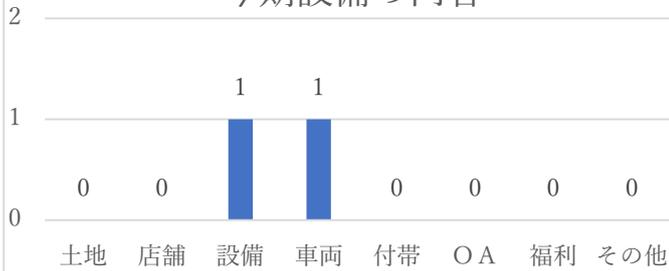
今期設備投資



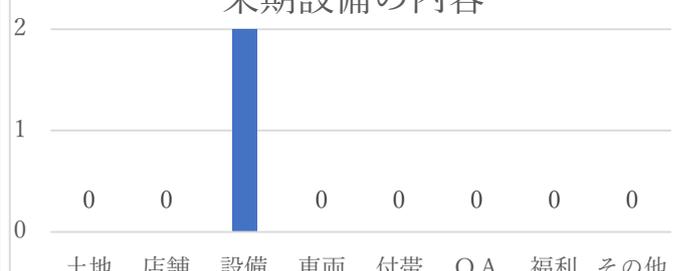
来期設備投資



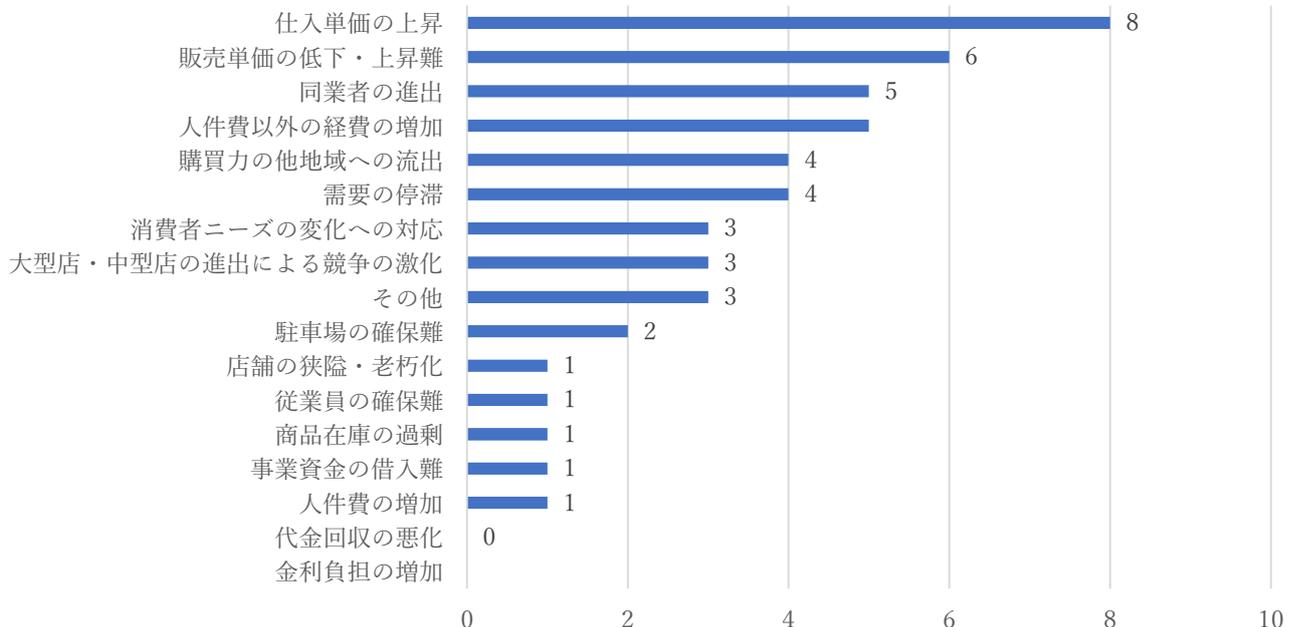
今期設備の内容



来期設備の内容



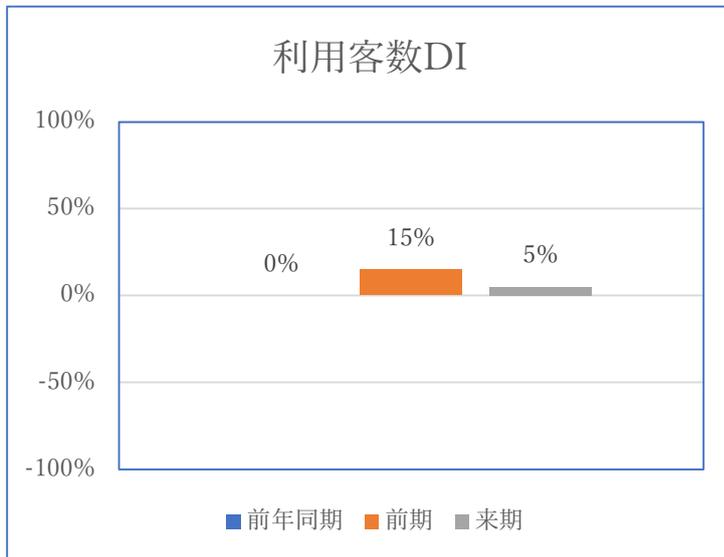
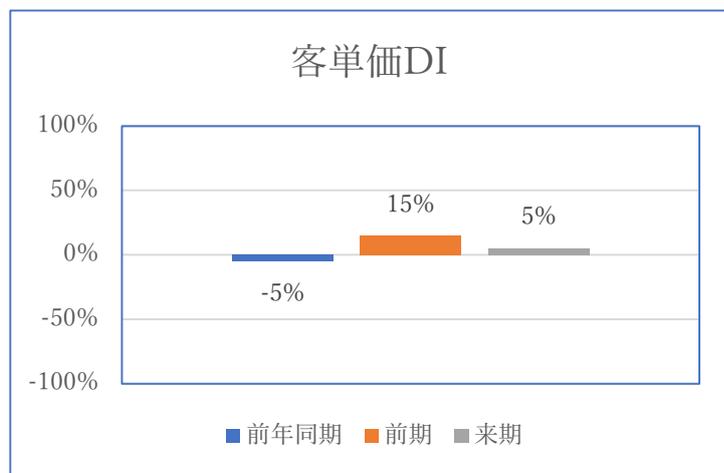
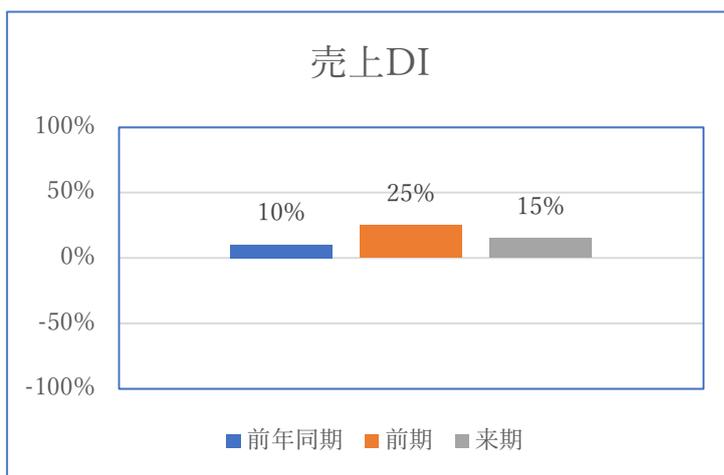
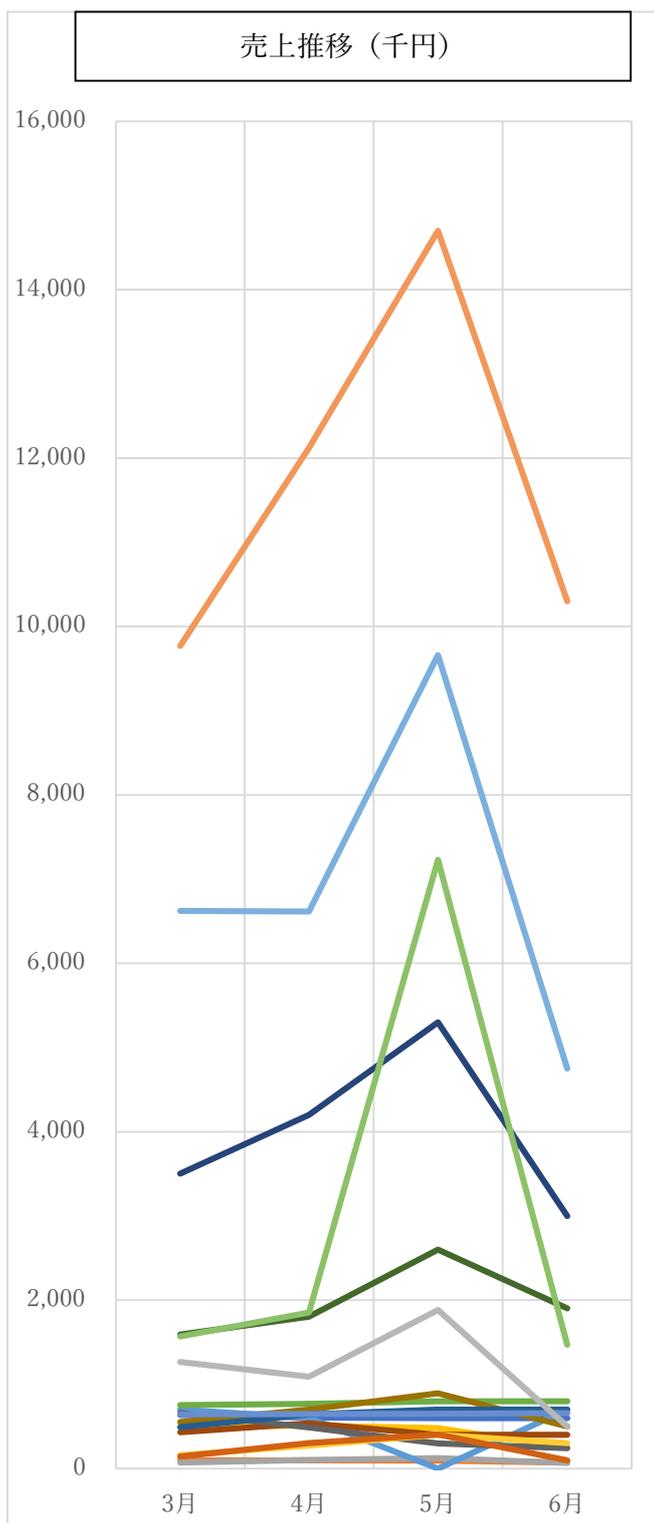
直面している経営上の課題

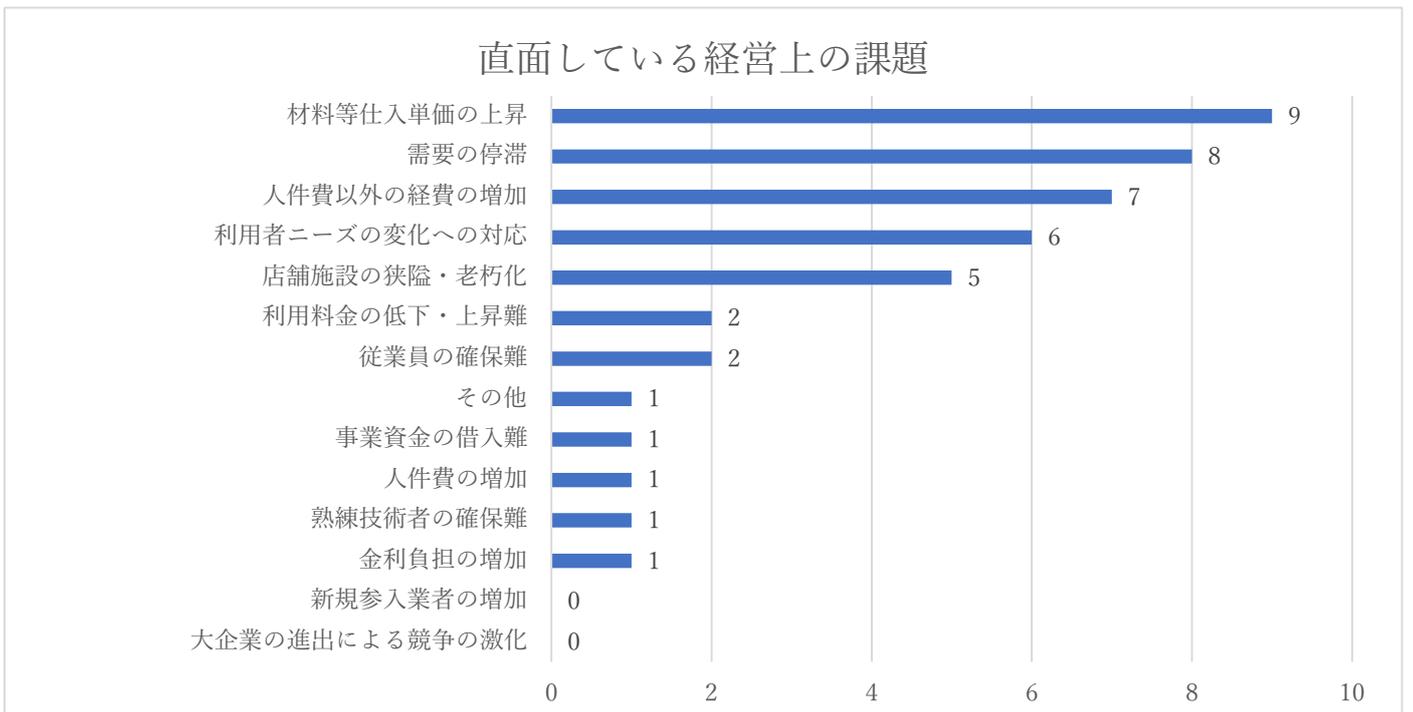
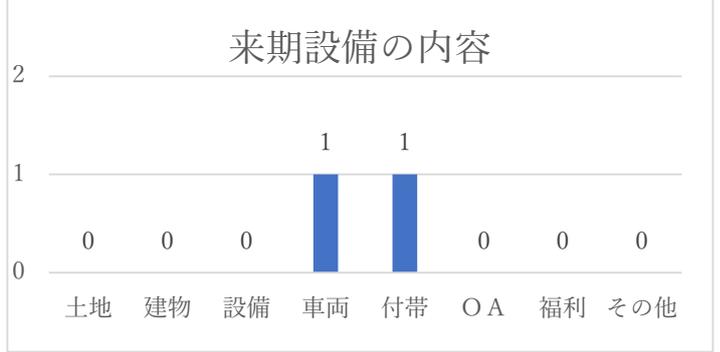
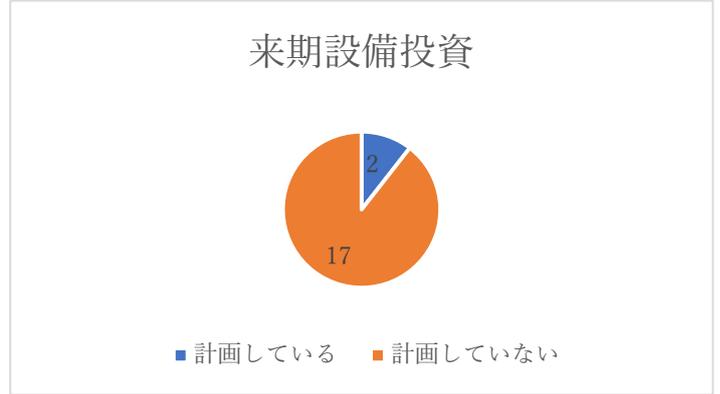
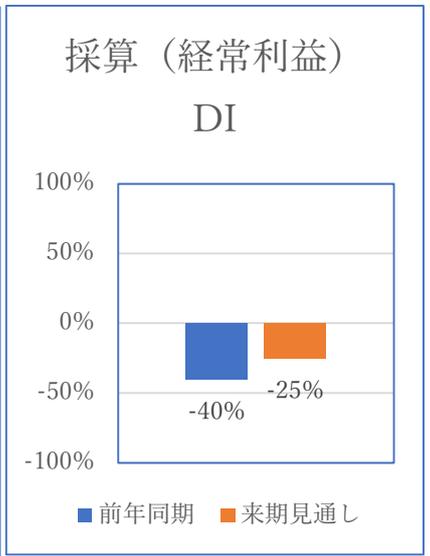
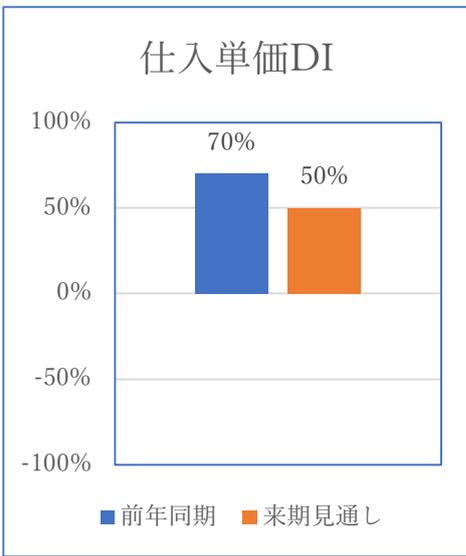
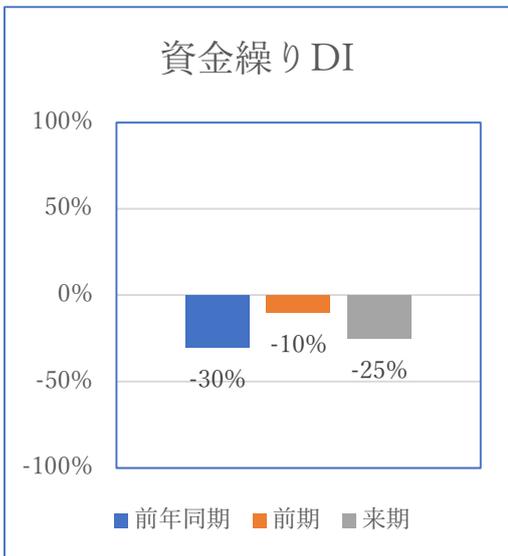


飲食宿泊業（2022年4月～6月）DI 値抜粋

コメント

飲食宿泊業の業況に関するDIは、まん延防止措置が明けてゴールデンウィークを迎えたことで足元の売上は回復している状況であるが、原価の上昇により採算面は厳しい声が聞かれる状況である。売上DIは前年同期+10と低調ながら回復の声で、前期+25とコロナ明けで売上が上昇傾向である。来期も+15と回復の声が多い。客単価DIは、前年同期▲5、前期+15と下げ止まりの状況で、今後の見通しも+5となっている。客数DI前年同期±0、前期+15、今後の見通しは+5と本格的な回復の声は少ないが前回調査時から下げ止まっている。資金繰りDIは前年同期▲30 前期▲10 来期▲25とマイナス傾向ではあるが前回調査時から改善している。仕入単価の上昇が前年同期+70と原価上昇の状況が顕著で、採算も前年同期▲40とコスト増で悪化している。設備投資も低調である。コスト増加、需要減退を課題に挙げる企業が多い。個別の声として、コロナ禍は大きな影響を及ぼしてきたが4月以降ようやく宿泊は、回復基調が見られ、人数も増加してきている、原材料の値上げはこれからの懸念材料である。コロナは収まりつつあるが、仕出し弁当等1件当たりの個数の減少はそのまま続く。ロシアの戦争による物価の上昇は大変つらい。油など価格が倍になっているものもあり、先行き不透明である。足元の回復と今後の懸念の声がある。





サービス業（2022年4月～6月）DI 値抜粋

コメント

サービス業の業況は感染症の収束後も回復基調が感じられず低調な状況が続いている。売上DIは前年同期▲10、前期▲35と足元で落ち込みが続く、来期見込みも▲10と回復を見通す声が少ない。客単価DIも低迷が続き前年同期▲5、前期▲10、今後の見通しも±0、客数DI前年同期▲10、前期▲20、今後の見通しは±0といずれも下げ止まりの様相である。資金繰りについて前年同期▲15、前期▲10、来期▲5と先の見通しで下げ止まりである。仕入単価DI前年同期+55 来期見通し+45と上昇傾向で、採算DIは前年同期▲20、来期見通し▲15と収益悪化の声が過半である。個別の声としては、美容業においてイベントが行われないと、髪を切るサイクルが長くなっていくので売上が減少する、スタッフ不足でお客様を断っているとの声がある。自動車板金業では、売上は下げ止まりであるが、消耗品の価格が高騰、廃棄物の処分費が上昇など収益圧迫の声がある。新型コロナの影響による売上の落ち込みが、前年同期と比較するとやや改善されたように思う。来期においても同様であるが、想定している基準に達していない為更なる努力が必要と感じていると前向きな声もあった。

